

1955（昭和30）年3月1日、岩木村・大浦村・駒越村が合併して新しく岩木村ができた。岩木村は文字通り岩木山の麓に広がる町である。

その岩木村は、6年後の1961年2月1日に町制施行している。写真①は合併から町制施行前後にかけての賀田（よした）通りである。今の岩木町役場付近

だが、合併前は大浦村の役場があったところだ。

写真②は現在の岩木町賀田通りである。前方の山は

岩木山だ。写真①は曇った日に撮影したのだろうか。山の雄姿が見えない。

岩木町には常に美しく壮大な岩木山が眼前にそびえている。岩木山自体は信仰の山としても有名だが、町

山と神社の岩木町

中園 裕

（文化振興課県史編さんグループ）



- ①賀田通りの懐かしい風景（岩木町立岩木小学校所蔵）。
②岩木町賀田通り近影。2005（平成17）年11月8日、栗城徹撮影。

民にとつては生活の一部であり、山と一心同体という感じなのだろう。

岩木町を語る上で岩木山神社は欠かせない。青森県でもっとも格式の高い神社であり、建物や敷地も広大である。

日清 日露戦争をはじめ、満州事変 日中戦争・太平洋戦争下では、青森県知事や各市町村長をはじめ、陸海軍将校が戦勝祈願を行っている。岩木山神社は、青森県の守護神的な存在だったといえるだろう。

しかし岩木山神社といえど、なんといってもお山参詣である。毎年華やかに行われる参詣行事には、多数の観光客が訪れる。岩木町にとつても、一世一代のパレードとなる。さぞかし町民も、お山参詣を誇りに思っているだろう。

2006（平成18）年2月27日、岩木町は弘前市と相馬村と合併する。昭和戦後の合併の際、岩木・大浦・駒越の3村は、中津軽郡に属していた経緯から、当初

弘前市との合併が考慮されていた。

けれども中弘合併が成立する寸前に、3村合併交渉が成立したため、結果的には弘前市と合併することなく終わった。その結果、中津軽郡は後に町制施行した岩木町のほか、相馬村と西目屋村だけとなった。

ところが、今回の岩木町の合併により、中津軽郡は西目屋村だけとなり、岩木町からも岩木という地名が消えることになる。町民が良かれとして選んだ合併だが、岩木という名前が消滅するのは寂しい。

現在、岩木町では町史編さん立ち上げ、鋭意資料を探査し、収集中である。市町村合併が進み、自治体史の刊行が次々と終了していくなかで、岩木町が新たに町史編さん事業を立ち上げることは大きな意義がある。岩木町の記録を編集し、町民の記憶を残す上で、この上なく大切な試みになるに違いない。